

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 未来を見つめながら地域や社会とつながる開かれた学校
→たのしく 本物に、地域等に、時代の動向に接する教育活動を展開する学校
- 2 個を大切に、児童・生徒一人ひとりの自己実現をめざす学校
→ゆたかに 基本的な生活習慣を身につけ、多くの経験を通して自己肯定感を有する児童・生徒を育てる実効性がある取り組みができる学校
- 3 豊かな学校力を備え、信頼される安全で安心な学校
→げんきよく 人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校

2 中期的目標

- 1 《たのしく》 支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮と組織としての専門性の向上
(1) 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の活用を充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を促進する。
(2) 障がいのある児童生徒の特性と到達度を踏まえた指導内容・方法を検証し、授業を改善して質を向上する。
(3) 地域支援を充実させ、地域の支援教育力の向上に資するとともに校内の支援教育力のさらなる向上。
(4) 教職員の組織的・継続的な育成のため、校内研修や外部研修を活用して初任者や経験が少ない教職員、及びミドルリーダーの育成を行う。
- 2 《ゆたかに》 自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実
(1) 全(小中高)学部において、キャリアマップを意識した実践をし、キャリア教育を充実する。
(2) 教員の就労支援に関する実践力を強化し、早期からの企業や事業所等の見学、実習を実施し、進路先の拡大をはかる。
(3) 障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進。
*保護者向け、教職員向けの学校教育自己診断の「進路」に関する項目を毎年3%向上させ、2021年度には肯定的評価が80%以上にする。
- 3 《げんきよく》 人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進
(1) 一人ひとりの人権を尊重し、いっそう安全・安心な学校づくりを推進する。
(2) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域やPTAと連携しながら防災教育を実施する。
(3) 機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年10月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>○【児童・生徒・保護者・教職員を対象に実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒回収率は67%（前年比+1パーセント）、保護者75%（前年比+2%）、教職員100%（前年も同様）児童・生徒、保護者の回収率が上がったのは、PTA 会議や校長室だよりで発信したからと思われる。 ・保護者の回収率を80%にすることが目標である。 ・高等部の保護者の提出率が低いので、懇談等を利用して回収率を向上させる工夫が必要と思う。 ・3年間同じ質問紙で実施したので、今年度は、質問内容を見直し、質問の表現を変更して、質問数も変更した。 ・質問数について、児童生徒は同じ。保護者は20問から16問に減らして、回答の負担を減らした。教職員は25問から16問に減らした。 ・経年変化を見るために「観点別」で3年分を集計した。 <p>○【児童・生徒の診断における評価率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と質問内容は同じ。新規で給食についての質問を追加した。 ・6項目中肯定的評価（70%以上）は、5項目。（前年度+2項目）前年度70%に到達しなかった項目は、進路について、教員に相談できるか、社会のルールであった。今年度は、進路以外の項目で+21%、+18%と大きく上昇した。しかし、進路については48%で上昇はしたものの70%に達しなかった。（前年度比+11%）進路の学習であることを意識させることが課題である。 ・他の項目もすべて上昇したこと、おおむね児童・生徒にとって、快適な学校生活であると思われる。 <p>*観点別3年間の経年変化</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校に対する意識に関するもの。②児童・生徒指導に関するもの 85%前後でほぼ変化なし。 ③進路指導に関するもの 48%（+5%） ④いじめに関するもの。⑤教育相談に関するもの 75%（+8%） ⑥道徳教育、人権教育に関するもの 77%（+17%） ⑦特別活動、学校行事に関するもの。⑧児童・生徒理解に関するもの 84%前後でほぼ変化なし。 	<p>第1回（7/2）</p> <p>《授業について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算の九九の学習で動画を見ながら歌で覚えているのが良い。 ・覚えたことを実際の場面で生かすことが課題。 ・自立活動やご家庭で、生活場面に活用できる時には積極的に活用するように促している。 <p>《水害時の対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1階が浸水する想定なら、校長室は被害にあう。大阪市は、校長室は2階にある。統合ICTで情報は管理されているので、PCが被害にあっても大丈夫。しかし、保存文書などは難しいので困る。ネットワークシステムが複数系統あり、1系統が1階のため検討課題ではある。 <p>《教員対象の事業所見学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても良い取り組みである。教員は希望制か希望制にしている。5か所選定して、事業所に受け入れ可能人数を出してもらった。 ・見学でどこを見学するのかということも大切と思う。 ・卒業生の様子を見学されるだけでなく、事業所に関わる者としては、働く職員の動きも見てもらいたい。 <p>《進路について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数実習に行っているが、実際の就労は少数であるがこれはなぜか。進路選択の幅を広げるために、一人で複数の業種に実習に行くため。 ・高1から実習に参加できるように仕組みを改めた。今後は中学部でも可能にしたい。 ・たくさん実習先があるのは良いこと。中学校でも高校入試の受験校決定のために多くを見学するように勧めている。 <p>第2回（11/5）</p> <p>《児童生徒の呼名について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部で下の名前では呼んでいるのが気になる。病院では、姓で呼ばれるので社会での呼名合わせるほうが良い。 ・保護者の立場では、下の名前では呼ばれるのを嫌がることはないと思う。下の名前まで覚えてもらっていると嬉しい。 <p>《ICTと授業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadを使った授業は活気があった。教材が一人ひとりに対応していて良い。 ・ICTを活用したビデオ教材を先生方が作成されていたが、準備する時間の確保が難しいと思うので気になった。 ・プリント学習でまず名前を記入させているが、名前を書くことができる生徒には、他の人が読めるように書かせる指導が必要。印鑑からサインに時代は変わっているのでなお

<p>○【保護者の診断における評価率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から追加した項目は、ICTの活用(76%)、防災の取組み(77%)、個人情報の扱い(88%)、給食(83%)である。 ・16項目中、肯定的評価は15項目(昨年度比+3.8%)このうち80%以上肯定的であった項目は12項目。 ・肯定的評価15項目中、昨年度より上昇した項目は、10項目。登校が楽しみ(89%)授業(90%)やキャリア教育(79%)、個別の教育支援計画(97%)保護者との連携(98%)について上昇した。研修や、各部署での取り組みの成果が出たことが良かった。70%に達しなかったのは、いじめや困ったときの対応について(67%)であった。わからないという回答が多かったのは、実感する場面がないので数値が低いと考えられる。 <p><u>＊観点別3年間の経年変化</u></p> <p>①学校に対する意識に関するもの 89%(+3%)</p> <p>②学習指導に関するもの 90%(+5%)</p> <p>③進路指導に関するもの 79%(+3%)</p> <p>④いじめに関するもの 67%(−12%) 質問内容を、こどもの人権を尊重した教育活動をしている →いじめについて対応していると変更したので、いじめに遭遇していないのでわからないという回答が多かった。</p> <p>⑤道徳教育、人権教育に関するもの 86%ほぼ変化なし。</p> <p>⑥情報提供に関するもの 93%(+2%)</p> <p>⑦学校教育への参画に関するもの 90%前後で変化なし。</p> <p>⑧児童・生徒理解に関するもの 88%で変化なし。</p> <p>○【教職員の診断における評価率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度25の質問から16に変更。個別の教育支援計画や指導計画、相談、連携、施設・設備の項目をまとめた。研修の質問を削除して食育を追加した。 ・16項目すべてが肯定的評価。(昨年度+32%) ・学部や担当部署を超えて連携することを目標に掲げて取り組んだ。 ・情報共有は積極的に行うようにした。 ・行政職を含めた悉皆研修を年に1回は実施したので、行政職と教員双方の連携が円滑になったと感じる。 <p><u>＊観点別3年間の経年変化</u></p> <p>①学校組織に関するもの 97%(+35%)</p> <p>②教育活動の改善に関するもの 85%(+25%)</p> <p>③児童・生徒指導に関するもの 90%(+6%)</p> <p>④進路指導に関するもの 76%で変化なし</p> <p>⑤いじめに関するもの 92%(+10%)</p> <p>⑥教育相談に関するもの 91%(+5%)</p> <p>⑦特別活動、学校行事等に関するもの 93%ほぼ変化なし。</p> <p>⑧保護者への情報提供に関するもの 97%(+3%)</p> <p>⑨児童・生徒理解に関するもの 90%ほぼ変化なし。</p>	<p>のこと大切。</p> <p>《進路について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業コースではない生徒の就労が決まったようだが、職業コースを優先していることではないということか。 ・希望があれば生活コースでも就労はできる。ただ、職業コースの学びと内容が違うので、いろいろなことを頑張るって身につけなければいけない。職種については、職業コースを優先するという考え方ではなく、どのコースであれ本人の適性や希望で決めている。 <p>《アナフィラキシー研修》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な研修内容は、マニュアルに基づき、発生時の対応の説明とエピペン取り扱い実習ロールプレイでの課題の確認。 ・アレルギーのある児童生徒の把握はしているのか。すべてしている。 <p>《学校教育自己診断》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は質問の見直しをして3年間は今回の質問用紙で進めることについてご意見 ・「だいたいあてはまる」と「あまりあてはまらない」の違いは何か。4択になっているが3択ではどうか。ファジーな部分を作ってそれについて肯定的よりか否定的よりかを判断してもらうため。「わからない」を作らない工夫である。 ・中学校でも4択にしている。 <p>《宿泊行事について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田市は中2の宿泊をやめた。旅費だけでなく、社会の意識の変化と思う。修学旅行も個人旅行が主流の現在では再考の必要性があるかと思う。スマホについても同様で、学校は必要がないと考えるが、禁止にしにくい現実がある。その点で従来のやり方が合わなくなってきたと感じる。 ・事業所では、職員の負担軽減でやめてもよいかと思うが、職員の要望で続けている。 <p>第3回《1/21》</p> <p>《学校教育自己診断》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の進路の項目の評価が上がらないのは、質問文の「大きくなった時の事」の意味が分かりにくいからではないか。 ・卒業後の事や、将来の事を聞いているという補足説明が必要ではないか。小中はイラストでそのことは入れている。高も入れるようにする。 ・食育は、料亭の指導を受けて実施しているにもかかわらず、児童・生徒は86%、保護者83%は低い数値と思う。教職員は75%でさらに低い。給食は児童・生徒が苦手な食材も使って実施しているので、好きなメニューばかりではなく、頑張らないといけない部分があるので、評価が低くなっていると思う。教職員は、今年からこの項目が入ったことで、改めて食育を意識するようになった。 ・いじめの項目について、いじめの場面に遭遇していないのでわからないが多く、肯定的評価が低いという分析だが、教職員は92%肯定的。このギャップは何か教職員は日々のトラブルについて十分対応しているという回答。 ・いじめの定義が保護者によって違うので、解釈には多面的な視点が必要。保護者は3%が「不満」67%が「満足」30%が「わからない」と感じているという解釈をしている。 ・来年度は「わからない」の回答率を指標にして分析してみてもよいと思う。 ・わからないが増えれば、平和な学校であるというとらえ方もできる。 <p>《学校経営計画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 全学部の教員が進路について学ぶ内容に福祉制度についての研修を入れてはどうか。研修は実施している。毎年学部ごとに手引きを出している制度について周知はできている。必要なのは、意識改革と思う。進路の件は進路部長に聞けばよいという習慣から、進路については担任が担うという意識に変えるために、職業コースの学級編成を変更する。 <p>《各委員の職場での同僚性や風通しの良い職場づくりについての工夫》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告をなるべく多く出して、共有するように提案している。 ・休憩時間に同じ部屋で全員が一緒に昼食をするようにしている。 ・昔は、勤務時間外での交流があり、その場にはいろいろな部署の人がいたので、自然と交流ができていた。今は、なくなっている。 ・ストレスチェックは、職場環境の指標ではあるが、業務負担の要素もあるので、風通しの良い職場かどうかを凶っているとは言いにくい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
中期的目標 《1たのしく》支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮と組織としての専門性の向上	(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の促進 ①シラバスの作成 ②高等部の新教育課程の実施 (2)障がい特性に応じた指導内容・方法の検証。授業改善及び質の向上 (3)地域及び校内の支援教育力向上 ①地域学校園支援教育のサポート ②支援教育理解講座やケース会議の開催 ③教育情報の提供 (4)人材育成と教員の専門性の向上	(1)研修を通じて「個別の指導計画」の作成力を向上させる。 ①教科主任をリーダーとしてシラバスを作成する。 ②高等部 50 分授業実施と教科会の充実。 (2)児童生徒の実態・課題にあった授業を実施するためにTTとの効果的な分担を指導案に含み、授業のユニバーサルデザインをすすめる。 (3)①コーディネーター、リーディングスタッフの訪問・来校相談、ケース会議のアドバイスを充実させる。 ②校内支援の充実。学部を超えてケース会議を実施する。 ③OT、PT、ST、SC を含めて支援教育に関する情報の提供。 (4)①新たにリーディングスタッフを指名して、実践を積む。 ②初任者の研究授業に 5 年めまでの教員をアドバイザーとして配置し、初任者と経験が少ない教員の授業力をトータルで向上させる。	(1) 「個別の指導計画」目標設定内容の修正率を 30%以下にする。 ① シラバスを完成させる。 ② 教職員向け学校教育自己診断「授業」に関する項目 88%→89% (2) 管理職の授業観察に「授業の視覚化・わかりやすさ」「TTとの分担」の観点を加える。 保護者向け学校教育自己診断「授業」に関する項目 85%以上。(H30:85%) (3)①訪問・来校相談回数 H30 年度同様 65 回以上。 ②教職員向け学校教育自己診断「学部間引き継ぎ」に関する項目 67%→70% ③実践集発行。 (4)①ケース会議や支援内容のレポートを回覧させて管理職が確認する。 ②ア、初任者の研究授業の指導案を 5 年目までの教員にも指導させる。 イ、外部研修受講者 70%	(1) 修正率は 30%以下であった (○)。 保護者向け学校教育自己診断「本人、保護者のニーズを踏まえて作成されている」97%肯定的評価。 ①小中のシラバス完成。(○) ③90% (○) (2) T.T との分担を観点に加えた。 保護者向け学校教育自己診断「子どもの実態・課題にあった授業を行っている」90% (◎) (3)①担当者が学部付きとしての役割も担っていたので、要望に応えることができなかった。42 回 (△) ②学部や部署を超えて、ケース会議を実施して、成果があった。80% (○) ③部会で報告した内容をとりまとめた (○) (4)①回覧を確認して、組織対応ができた。(○) ②ア、アドバイスを求めることはできたが取り組みとして定着させることができていない (△) イ、69% (○)
《2ゆたかに》自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実	(1) 全学部において、キャリアマップを意識した実践をする ①自己肯定感を有する児童生徒の育成 ②全学部において、高等部卒業後の進路先である事業所や企業について学ぶ機会をつくる (2) 高等部の就労支援に関する実践力を強化 (3) 障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進	(1) 学校教育目標を念頭に置き、キャリアマップの学部目標を達成するように教育活動を行う。 ① 児童生徒が、自分の得意不得意を知り、得意を伸ばす取り組みを行う。 ②進路部が夏季休業を利用して、全校の教員向けに事業所や特例子会社等の見学会を実施する。 (2) 学年進路が中心となり、就労支援を実践する。職業自立コース 1 年生の企業見学、2、3 年生の企業と連携した授業の実施。 (3) 文化芸術活動に積極的に参加する。また、スポーツの課外活動に加えて文化芸術活動も実施。	(1) ①学期ごとの総合所見で確認。児童生徒向け学校教育自己診断「進路」に関する項目 37%→40% ②教職員向け学校教育自己診断「外部機関との連携」に関する項目 66%→68% ・参加者数は 30 人対象 (2) 就労率の向上 14.2%→15% (3) スポーツの課外活動日を増やし、新たに芸術活動も加わる。	(1)①児童生徒向け学校教育自己診断「先生はあなたが大きくなった時のことを教えてくれますか」48% (○) ②66% 延べ 90 人以上 (81.4%) が参加した。(◎) (2) 1 年生の職業コース生は 3 学期に企業見学実施。2、3 年生は月に 1 回実習ができた。就労率 23.3% (◎) (3) 新たに、美術、音楽の活動が始まった美術作品が校外コンクールで受賞 (○)
《3げんきよく》人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進	(1) 人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校 (2) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域や PTA と連携しながら防災教育を実施する (3) 機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。	(1) 人権研修を実施して不適切な指導がないように取り組む。 ① 参加体験型研修の実施。 (2) ①H30 年度に改訂した危機管理マニュアルを検証する。 ② PTA と連携した防災の取り組みを実施する。 (3) ①首席、部主事、分掌長、学年主任を軸とした情報共有の迅速化と徹底 ②風通しのよい職場づくり	(1) ①保護者向け学校教育自己診断「人権」に関する項目 79%→80% (2) ①保護者向け、教職員向け「防災」に関する項目 80% ③ 個人備蓄の継続。H30 は 55.8%が持参→60% (3) ①部主事、首席会を活用した学部間の情報共有と部会記録の管理職への回覧。 ②ストレスチェックの指標 119→115	(1) ①保護者向け学校教育自己診断「教職員は子どもの障がいについて理解している」88% (◎) (2) ①保護者向け 77%、教職員向け 85% (○) ②保護者対象の安否確認メール訓練を実施 80%以上の家庭が参加した。防災備蓄は 60%の提出 (○) (3) ① 部会記録を管理職に回覧することで、協議事項について確認でき、迅速に対応ができた。 分掌長が担当首席と連携できていると回答したので、情報共有が徹底された (○) ②ストレスチェックの指標 117 (△)